

「2022 年度全国校友大会 in 京都」極暑の中、無事開催 ～ 3 年ぶりの密にならない対面型イベント～



7月2日、約450名の卒業生やご家族ご友人が参加し、「22年度全国校友大会 in 京都」を開催しました。新型コロナウイルスの影響で2年連続中止となっていた「全国校友大会」を今年は、京都を拠点にすることで卒業生に母校に帰ってきていただく機会の創出と、「本学卒業生ならではの体験」を軸に計画を立てました。

当日の集合は深草キャンパス。懐かしい食堂などを楽しんでいた。開会式の後、11のコースに分かれて参拝、観光するプログラム。

「寺院コース」では、ご住職や執事長が卒業生である京都の有名寺院7カ寺にご協力を得て、当日は通常では見られない場所の拝観や施設の説明をしていただきました。

「散策コース」は、「上七軒」「西陣」「伏見酒蔵」の京都らしい3カ所を設定。それぞれのコースは、古美術研究会OBORGの

皆さまがレジュメの作成や案内を担当しました。「大宮キャンパス」「瀬田キャンパス」コースでは、現役学生の団体「アドミッションサポーター」が卒業生に今の母校を案内してくれました。

「ミステリーコース」は当日まで行き先も内容も伏せていましたが、参加された方々の満足度は高かったようです。

開会式のオープニングは、中央広場で学生よさこい団体の「華舞龍」が迫力ある演舞を披露。開会式では校友会の菅谷大会委員長の開会宣言、赤松会長のおあいさつに続き、入澤学長からは「お帰りなさい」とのごあいさつがありました。京都市支部の宮城支部長からの一言の後、全員で集合写真を撮りました。

最後に、応援リーダー部の学生による卒業生へのエールの後、それぞれのコースに向かうため、バスへと移動しました。その間、芝生広場でバトン・チアSPRITSが元気づけるパフォーマンスを披露してくれました。

厳しい暑さの中、朝から音響放送関係の学生、キャンパス内外誘導担当の校友会本部役員。久々にキャンパスを訪れる卒業生とご家族、ご友人に「参加してよかった」と言っていた。ただ、もう、まさに「ALL龍大」で創り上げた全国校友大会となりました。

Ryukoku Univ. Alumni News No.95

龍谷大学
校友会報



〔校友総数 205,000名〕
2022(令和4)年9月30日
第95号
発行＝龍谷大学校友会
編集＝校友会広報部会
<https://www.ryukoku.ac.jp>
京都市伏見区深草塚本町 67
龍谷大学内
校友会事務局
TEL075-645-2015 FAX075-645-2017



HP



LINE

校友会章受賞者、校友短信、校友会本部役員……2面
経営者登場 Who's Who、海外で活躍する校友……3面
特集「全国校友大会 in 京都」……4面～6面
学部同窓会、サークルOBORG会の活動……6面
支部の活動、コラム、校友会員優待特典……7面
仏教に学ぶ、校友のお店……8面

～いまこそ「建学の精神」に基づく「心」による平和の実現を～

ウクライナからの学生を受け入れ、学費免除や住まい提供などサポート



5月13日、本学は、学生交換協定校のキーウ大学（ウクライナ）日本語学部4年生のオレクシウ・ロクソラーナさんを交換留学生として受け入れました。

ロクソラーナさんは、21年度に交換留学生として来日予定でしたが、コロナ禍の影響によってオンライン授業を受けていた学生です。22年2月のロシアによるウクライナ侵略の影響を受けて、一時ポーランドに避難していましたが、ロクソラーナさんの受け入れは、こうした中で、

「京都府や龍谷大学の努力と援助のおかげで、今日本にいます。困難な時期に日本で勉強できる環境を与えてくれた皆さまのサポートや人情、思いやり」に心から感謝したいと話し、入澤学長からは、「龍谷大学は『平和に寄与するプラットフォーム』を目指しています。多くの友達を作って日本文化に対する学びを深めてください。ともにしっかりと前を向いて進みましょう。」と歓迎の言葉が述べられました。

受け入れにあたり学生を出迎えたウクライナ国旗の横断幕は、本学卒業生でバドミントン部名誉監督の入江吉信氏（70年経済卒、現・株式会社京屋代表取締役）のご協力により、戦乱を逃れて本学に來られる留学生の不安を少しでも解消できるよう、温かく迎えたいという気持ちから、本学に寄贈いただきました。セレモニーの開催された顕真館に高々と掲げられました。



ウクライナ国旗の横断幕の寄贈

龍谷ミュージアム

「博覧 - 近代京都の集め見せる力 -」

初期京都博覧会・西本願寺菟園会
仏教児童博物館・平瀬貝類博物館

なぜ人はモノを集めるのか？
好奇心・満足感 そして探求心

明治から昭和戦前期に京都で開催された博覧会や展覧会、開設された博物館では、様々な手法を用いて展示資料を集めていました。さらに、見せ方や意匠にも工夫を凝らしていました。本展では、当時の主催者側の展示に込めた強い思いを探りたく思います。



銀製孔雀置物
明治5年 西本願寺

- ◆会 期：2022年9月17日(土)～11月23日(水・祝)
- ◆休館日：月曜日(ただし、9月19日、10月10日は開館)、9月20日、10月11日
- ◆開館時間：10時～17時 ※入館は16時30分まで
- ◆入館料：一般1,300円
- ◆問い合わせ：龍谷大学 龍谷ミュージアム
TEL：075-351-2500
<https://museum.ryukoku.ac.jp/>

龍谷ミュージアム 無料で優待券

期日：2022年11月23日(水・祝)まで
(同伴者1名を含め
無料でご入館いただけます)

『龍谷の味』

全国のローソン(ウィンターギフト)で新発売！



農学部実習農場(滋賀県大津市)で収穫した「龍谷米」5袋(品種おまかせ)とオリジナル白味噌(1袋)がセットになった「龍谷の味」をローソンのウィンターギフトで販売いたします。環境こだわり栽培で農学部生たちが育てた龍谷米、その米と大豆を使用して、京都の老舗味噌屋(株)石野味噌で醸造した白味噌です。全国のローソン店舗またはWEBからご注文いただけます。次代を担う農学部生達の「食への思い入れ」もよい味を加えています。ぜひ、ご賞味ください。

【受付期間 12/1迄 お届け期間 12月下旬】

本学に縁が深く、京都・日本を代表する料理人[美山荘 中東久人氏、cenci 坂本健氏(99年社会卒)]による白味噌料理レシピはこちら <https://ryukoku-nojo.com/>



ローソンギフト
ご注文サイト



第22回 校友会賞受賞者

団体(Café rita)

コロナ禍において人と人との繋がりの大切さに気付き、本学の自省利他の行動哲学をもとに、学生だけで新たな交流の場となるカフェの企画運営をしました。在学生、卒業生、教職員、近隣住民を巻き込み、正課外において「主体的な活動」「地域連携」「仏教SDGs」の具現化を目指しています。



団体(Ryu-SEI GAB
ちゅーちゅー)

活動の目的である地域課題の解決に向けた取り組みとして、桃陵団地の住民の繋がりを創出し、イベントの実施を粘り強く働きかけ、住民の交流や健康増進に寄与した取り組みは、京都市などが主催する「健康長寿のまち・京都いきいき

アワード2021」大賞受賞に繋がりました。



団体(スポーツチャンバラ
サークル「龍刃会」)

創部4年にして20年度全日本学生スポーツチャンバラ選手権男子団体戦で優勝、女子団体戦3位、また21年度は男子団体で見事2連覇を果たしました。



課外活動などで顕著な成績を上げ、母校発展の気運を盛り上げた学生(在学生)に対して、その功績を称え、表彰しています。

た。さらに、個人戦においても有段女子楯長剣、有段女子楯小太刀部門で優勝するなど、多くの種目で入賞しました。

個人(端艇部)

菅沼 奈津美 22年文卒

第48回全日本大学選手権大会において、女子シングルスカルで優勝。また、チーム戦では誰よりもチームをけん引し、第99回全日本選手権大会では見事に端艇部として20年ぶりの優勝を成し遂げました。



個人(バドミントン部)

植村 理央 (国際学部4年
佐藤 灯 (政策学部4年)

学生の頂点を決める全日本学生選手権バドミントン選手権大会において、女子ダブルスで優勝。また、団体戦ではチームの主力として活躍

し、全日本学生バドミントン選手権大会団体戦準優勝、関西学生バドミントンリーグ戦大会優勝(19連覇)に大きく貢献しました。



個人(吹奏楽部)
加藤 大智 文学部3年

第24回KOB E国際音楽コンクールにおいて最高位を受賞。また、第30回ブルクハルト国際音楽コンクールにおいても最高位を受賞するなど、クラリネットでもまさに日本トップレベルの実力であることを証明しました。



ボクシングWBO世界ミニマム級チャンピオン
谷口将隆さん初防衛
パブリックビューイングで観戦



初防衛後の赤松会長と入澤学長

を開催した鹿児島県支部とZoomでつなぎ、ボクシング部初代主将の藤善清之さん(65年文卒)によるご挨拶、ボクシング部員によるボクシングの説明や迫力あるミット打ち、応援リーダー部によるエールを行い、会場が一体となつて谷口選手を応援しました。

実は、前日計量で挑戦者がリミットの47.6キロを2.5キロ近く超過してクリアできないという、まさかの事態。これは、2階級上のフライ級に相当する体重です。しかも、WBOの規定では体重超過した挑戦者にチャンピオンが負けるとベルトを失うという、谷口選手にとってあまりにリスクが大きいルール。試合中止の選択

本学初のボクシング世界チャンピオン谷口将隆選手(16年文卒)の初防衛戦が4月22日に行われ、万全のコロナ対策のなか、深草キャンパス成就館のCafé Ryukoku & でパブリックビューイングを開催しました。谷口選手の試合は20時開始予定と遅い時間にもかかわらず、赤松校友会会長や入澤学長をはじめ50名を超える卒業生、学生、教職員が集まりました。試合に先立ち、19時過ぎからは、同じくパブリックビューイング



ボクシングパンツには本校ロゴ広告も掲載



ボクシング部員がミット打ちを披露

校友短信

ざわ だ きょうえい 沢田 教英さん (57年文卒)

34年、愛知県生まれ。22年3月に西山浄土宗(総本山・光明寺、長岡京市)第88世管長。西山浄土宗で初の尼僧の法主(管長)に就任。任期は5年間。光明寺法主を兼ねる。卒業後は、寺で学習塾を開き、子どもたちを指導した。裏千家の正教授として自坊の茶室「放光庵」で茶道を指導し、多くの生徒に慕われる。公益財団法人全日本仏教尼僧法団の副理事長・京滋支部長でもあり、京都仏教会の参事も務める。



はしむら こうえい 橋村 公英さん (82年文院了)

56年、奈良県生まれ。22年5月に華厳宗管長・第224世東大寺別当に就任。東大寺福祉事業団理事長や庶務執事などを歴任し、16年から執事を務めた。別当の任期は4年間。東大寺塔頭正観院住職も務める。「日本は宗派仏教というのが一つ一つが釈迦につながると考えれば同じ心で集まることができる」と語られる。



に包まれました。

試合後のインタビューでは減量に失敗した相手選手を気遣うコメントを送るなど、対戦相手への敬意も忘れない谷口選手に対し、会場から大きな拍手が湧きおこりました。

校友総会

今年もオンラインで開催

6月11日、校友総会を昨年同様オンラインで開催しました。

総会では赤松校友会長のあいさつに続き、議長に町田副会長を選出しました。

菅谷事業部会長が21年度の事業報告と22年度の事業予定について、成松総務部会長が21年度決算と22年度予算について説明しました。

オンラインでの総会開催も3年目となり、参加された卒業生の皆さまもオンラインに慣れてこられたように感じます。オンライン開催のメリットは、海外を含む遠方の卒業生にも参加いただけること。今後も様々な地域の方に総会に参加いただけるよう広報に取り組みしていきます。

校友会本部役員 (任期'22.4~'25.3)

氏 名	役職	卒業、修了年	卒業学部、修了研究科	部会
赤松 徹 眞	会 長	1976	文	
小川 信 正	副 会 長	1967	文	広報
町田 徳 男	副 会 長	1980	法	総務
荒川 林 太郎	副 会 長	1993	社会	事業
成松 重 人	総務部会長	1987	法	総務
菅谷 幸 弘	事業部会長	1976	経済	事業
泉 千 晶	広報部会長	1989	法	広報
米田 禎 孝	(常任)理事	1972	経営	事業
田中 正 勝	(常任)理事	1978	経済	事業
田中 秀 雄	(常任)理事	1997	理工	総務
田中 友 悟	(常任)理事	2017	政策	事業
小野寺 理 恵	(常任)理事	2019	国際	広報
畑 雄 一 朗	(常任)理事	2019	農	事業
湯 口 博	理 事	1969	経済	総務
神 鳥 誠	理 事	1972	文	事業
畑 利 和	理 事	1974	経営	事業
緒方 静 子	理 事	1974	経営	広報
清水 卓 智	理 事	1980	法	広報
芝田 正 男	理 事	1981	経営	広報
長野 加 津 雄	理 事	1985	法	事業
村上 孝 弘	理 事	1986	法	広報
松田 祥 子	理 事	1990	文	広報
前田 佳 子	理 事	1993	短期	事業
成宮 孝 之	理 事	1993	社会	事業
山根 拓 也	理 事	1996	理工	事業
松本 正 見	理 事	1997	文	広報
稲野 一 美	理 事	1997	文	総務
佐古田 英 樹	理 事	1999	文	事業
水野 祥 司	理 事	2001	経営	事業
大 島 優 季	理 事	2008	国際文化	広報
小 濱 聖 明	理 事	2009	経営	総務
今堀 まゆみ	理 事	2010	経済	広報
西 口 智	理 事	2013	経営	広報
宮岸 李 奈	理 事	2015	政策	広報
佐々木 了 恵	理 事	2015	政策	事業
森 竜 樹	理 事	2016	理工	広報
吉 岡 毅	理 事	2016	社会	総務
増田 美 紀	理 事	2019	国際	広報
柳口 咲 季	理 事	2019	国際	広報
水 嶋 悠 太	理 事	2020	農	事業
中 川 鮎 実	理 事	2021	農	事業
樽 井 博	監 事	1971	経営	
中 根 真	監 事	1996	社会	

[oVice]を使った交流会

6月11日、オンラインツール[oVice]を使った交流会を開催しました。この交流会のコンセプトは、「ここに行けば、龍大や龍大卒業生とつながることができる場所がある」です。[oVice]はオンラインでも対面に近い形で話や交流ができるツールです。新型コロナウイルス対応も3年目となり、事業の対面開催を望みながらも、その実現が難しい中で、交流ができる方法はないかと見つけ出したものです。実際に使ってみると、最初は難しそうだと思ってい

た方も、Zoomとは違い、対面で会った時のように会話ができて[oVice]にすっかりなじまれ、これからのオンライン会議は[oVice]がいろいろとできるようになりました。今年度、校友会では[oVice]を活用した交流会を数回計画しています。日時などの詳細は、校友会のFacebook、twitter、Instagram、LINEを「ご覧ください。ここ(龍谷大学校友会[oVice]交流会)」に行つて、龍大や龍大卒業生とつながりましょう！



自宅の作業部屋にて

校友 Who's Who

作詞家 井筒 日美さん

法学部卒業。富士通ディーラーにOAインストラクターとして勤務。05年に柴咲コウ「あどけない温もり」で作詞家デビュー、07年にはタッキー&翼の「SAMURAI」がオリコン週間第1位を獲得するなど現在も活躍中。17年には大阪スクールオブミュージック専門学校で作詞講座の講師を務める。著書に『ゼロからの作詞入門』（ヤマハミュージックメディア）がある。

好きなことは最後まで

「作詞家だから文学部卒と思われがちですが、実は法学部卒なんです」 幼少期は祖父の寺の境内で遊び、古語や歴史に触れる環境がそろうていました。結構理屈っぽい性格で理論家だと自己

分析し、そこが向いているのではと直感的に受験したので法学部。当時は男子学生ばかりで、自身は大人しい学生だったと振り返りつつも、大学時代に鍛えられたノウハウは、今に通じています。作詞という仕事はタイトなオファアが多く、集中力や洞察力が必要で、ゼミで発言発表する際に言葉の頭で整理していたことが役に立ち、それらを最後までやり遂げる事が大切と教えられ、鍛えられました。

言葉は生き物。今私たちが使っている言葉も、いにしえの人々からする

と美しい言葉かどうかわね私たちが揶揄しがちな若者言葉を未来の人々はどう感じ取るだろうか。若いミュージシャンの歌詞や楽曲から得るものも多く、いつも良い影響を受けています。

言葉のチョイスやセンスを磨くためにタロットカードも制作しています。78枚のカードの意味を元に、選ばれたカードから物語を創作します。作詞の仕事は曲が先で歌詞をはめ込む作業になりますが、小さいころから文章やエッセイを創作することが好きで、楽曲のテーマが決まってい



近年の発売CDと著書と手作りのタロットカード

もメロディーを聴いて思わぬ発想が浮かびます。5歳のころからピアノを習い、仕事上音感を鍛えるために今でも練習しています。好きだからこそ自分の思いから音楽作家のデータベースを作ったことがきっかけで尊敬していた松井五郎さんに作家事務所を紹介していただき、柴咲コウさんの歌詞を手がけて初めてコン

た。今の学生には、楽しむことを忘れず、変わっていくものを恐れず、構えることなくどんどん発言してほしいと思います。自分に自信がなくても受け止めて理解をしてくれる人はちゃんといる。だから自分を責めず流されずにいてほしい。上手に逃げ場を作れることも現状打破のきっかけになるのではないのでしょうか。

富士通ディーラーでOA機器のインストラクターをしていたことも、大阪スクールオブミュージック専門学校で作詞の講師をする際役立ちまし

総合エンターテインメント企業アミューズで入社後からサザンオールスターズのマネージメントを担当し、この業界では異例の若さでトップに就任された中西さん。本学でのご経験が今にどの

自分自身の人生を悔いがない時間になりたいと痛烈に感じました。その後も、行き帰りのチケットだけ取って宿は現地です探すという冒険的な旅行をしていました。自分の卒業旅行も同様のテンションでバスケットボールサークルのメンバーとアジアに行きましたが、みんなが海外初体験だったこともあり、未だに「これまでで一番記憶に残る楽しい旅行だった」と言ってくれます。旅行は、事前にイメージする喜び、行つて体験する喜び、思い出す喜びを

生みだしてくれませんが、この三つの喜びを創り出したいという想いにおいては、エンターテインメントという今の仕事に繋がっていると思います。サザンオールスターズとの出逢い、学んだこと

音楽を聴くことが大好きでした。サザンオールスターズのことば小学生の頃から知っていました。人生で初めてバンドのコンサートに行ったのは高校生の時です。それまで、両親に「第九」のコンサートに連れていってもらったことはありましたが、

西宮球場のスタンド席で見たサザンオールスターズのステージに、「こんな世界があるのか」と衝撃を受けました。学生時代から、自分が生きている存在意義や人の記憶に残るということ

を考えたことが多く、人が発想することの更にその先にチャレンジをし喜び合いたい、今の世に一緒に生きる人々の心に自分に関わる何かを残したいという思いから、アミューズに就職しました。入社早々に担当マネージャーに就かせていただいたのがサザ

ンオールスターズということで、凄くご縁を感じました。サザンオールスターズは、私が入社する前から、言わずと知れた長きにわたり音楽業界の最前線

を走ってきたアーティストです。社会全体がサザンオールスターズの動きに注目し、たくさんの一流のスタッフの方々がその活動を支えてくださっている中で、気持ちを高め合い、それを一つにしてプロジェクトを進めていくことは、そう簡単なことではありませんでした。

私自身はそれをずっと楽しいと感じていましたし、質やレベルは全く違いますが、人を喜ばせることを真剣にとことんやる、それは学生時代と通ずるモノがありました。アーティストやスタッフのプロフェッショナルな姿勢、常にファンの皆さまをイメージし思案する、人の気持ちを主役

に置いた話し方や考え、盛り上げ方に魅了され、「この人のためなら」と、自分の情熱がアップデート

かけがえのない時間を無駄にしたくない

経営者登場

中西 正樹さん (98年文卒)

株式会社アミューズ 代表取締役 社長執行役員

プロフィール

73年京都府生まれ。98年文学部真宗学科卒業。株式会社アミューズ入社後早々に、当時20周年の節目となるサザンオールスターズの担当マネージャーに配属。以降、長年にわたり、サザンオールスターズを中心に音楽マネージメントチームをけん引。08年5月タイシタレーベルミュージック株式会社代表取締役に就任。19年6月株式会社アミューズ代表取締役 社長執行役員に就任。



ンオールスターズということ、凄くご縁を感じました。サザンオールスターズは、私が入社する前から、言わずと知れた長きにわたり音楽業界の最前線

を走ってきたアーティストです。社会全体がサザンオールスターズの動きに注目し、たくさんの一流のスタッフの方々がその活動を支えてくださっている中で、気持ちを高め合い、それを一つにしてプロジェクトを進めていくことは、そう簡単なことではありませんでした。

私自身はそれをずっと楽しいと感じていましたし、質やレベルは全く違いますが、人を喜ばせることを真剣にとことんやる、それは学生時代と通ずるモノがありました。アーティストやスタッフのプロフェッショナルな姿勢、常にファンの皆さまをイメージし思案する、人の気持ちを主役

海外で活躍する校友

舞台芸術国際コーディネーター

中根 恵梨さん

プロフィール

18年国際文化学部国際文化学科卒業。カナダ・モントリオールでフリーランスの舞台芸術者としてのキャリアを始める。カナダと日本の国際舞台芸術祭やマーケットのほか、主にコンテンポラリー・サーカスとダンスの国際プロジェクトに携わる。22年秋よりベルギー・ブリュッセル自由大学院で文化マネジメントを学ぶ。



芸術の道

5歳から学び始めたピアノとの出会い。この瞬間が舞台芸術に生きる道の始まりです。日本で生まれ育ったものの、音楽を通して世界中の芸術や歴史、文化を吸収し、同時に日本の芸術の現状に気づき始めました。芸術者・国際人としての自分をどのように芸術と日本に活かせるのか、直感的に「海外」が暮らし場所であり夢を実現できる舞台だと感じました。

自分らしく

19年末帰国。これまでの経験のおかげで様々な芸術祭や公演に携わることでできました。渡欧計画がありましたが、コロナの影響で日本にとどまることになり、芸術者としての役割について深く考える日々を過ごしました。幸い作品を海外へ発信するプロジェクトに関わることができましたが、同時に一刻も早く然るべき環境で自身の能力を磨かねばと感じ、22年初め、欧州の中心地、ベルギーの大学院で文化マネジメントを学ぶことを決めました。

人との出会い、感謝、夢を思い続けること。どんな逆境でもこの気持ちを大切に、自分だけのタイミングを逃さないことが今の自分を作り上げてきた気がします。芸術者として生きることばどの国でも簡単ではありません。だからこそ自分が何をしたいのか」が評価されます。まだまだ発展途上ですが、自分の人生を描いていきたいです。

輝く母校と京都を満喫 よみがえる学生時代

⑧ 伏見酒蔵と史跡散策コース：大畑 美紀さん(90年文卒)

お天気に恵まれた7月2日、サークルの大先輩に誘われて後輩と共に「全国校友大会 in 京都」の伏見酒蔵コースに参加しました。

受付に行くとき偶然にも案内係は元クラスメイトで嬉しい再会でした。

受付を済ませてから開会式までの間に「これは何処かしら？」と校内地図を見ていると、スタッフTシャツを着た学生さんが「どこに行かれますか？」と声をかけてくれ、目的地の場所を案内してくれました。

いただいたチケットで学館跡地の新しい施設Cafe Ryukoku & で早々にランチを済ませてから、すっかり綺麗になった学舎内を「ココには○○があったよね」と思い出しながらしばし散策しました。

開会式では華舞龍サークルの元気なダンスで幕開け、高温のため本部の方々の機転で急きょ顕真館での式典になりました。チア部のダンスに見送られてバスでいざ伏見の「月桂冠大倉記念館」へ。館内ガイドの方がこれまた校友でした。ビデオを見て酒造りの大きな酒樽や用具類、歴史についての展示をみてまわり、お楽しみの試飲コーナーへ。お土産も買って「寺田屋」へ徒歩移動。刀キズなども残っており坂本龍馬の直筆手紙なども展示されていました。

解散後も伏見の街並みを少し散策してから出町柳の先輩のお店「タンブリーノ」での二次会へと繰り出しました。

参加費 1,000円で校内の学食で使用できるチケットや京都市内の校友のお店で使えるチケット(早速「タンブリーノ」で使用しましたよ)、香りの葉もいただきお徳感満載でした。

久しぶりに大学へ行き、先輩や後輩と数年ぶりに再会できて思い出もひとしお。本当に楽しい時間を過ごすことができました。暑い中ご準備いただいたスタッフの皆さま、学生さん、本当にありがとうございました。

また次回も機会がありましたらぜひ参加したいと思います。



⑨ 大宮キャンパス見学コース：T. Mさん (86年法卒)

このコースは参加者が一番多く、バス4台に分乗して大宮キャンパスに移動しました。私は解散が西本願寺のグループでしたが、別のグループは解散が梅小路公園。最後に京都鉄道博物館や京都水族館に行かれるのか、子供さん連れの参加も見受けられました。

私のグループは降車後、赤いTシャツを着た学生サポーターの方々に先ず大宮図書館、本館を案内していただきました。文学部以外の学生さんもおられたようですが、大宮キャンパスの紹介も板についたもので、事前準備をしっかりされていて頼もしい感じでした。

その後は西本願寺に移動し、同寺の職員さんから懇切なご案内をいただきました。修復間もない唐門、飛雲閣、最後に書院・能舞台をじっくり拝観させていただき、安土桃山文化の粋を堪能させていただきました。

参拝部での解散後は、各自で御影堂、阿弥陀堂を参拝しました。当日はこの夏一番の猛暑の日でしたが、両御堂の中は涼しい風が通り抜けて心地よく、清々しい心持ちでツアーを終えることができました。



本館から見た大宮キャンパス



本願寺 荘厳な唐門

⑩ 瀬田キャンパス見学コース：上簀 久美子さん(95年短大卒)

初参加の校友大会。参加の決め手は11コースもある魅力的なツアーです。

ひとつだけ選ぶのにとても迷いましたが、他県で農業を学ぶ息子の「滋賀県のお大学の農業を知りたい」との希望で「10. 瀬田キャンパス見学コース」に2人で申し込みました。

このコースは収穫体験、瀬田キャンパスツアー、マンドリンオーケストラ部の演奏と盛りだくさんの内容でした。

農場長の説明を聞き、いざ農場へ。広い土地に様々な農作物が先生方、スタッフの方、学生さんたちの熱意と愛情を受け大きく育っていました。そこで夏野菜をどんどん収穫させていただきました。小さなお子さんも目を輝かせて野菜を選んでいたのがとても印象的でした。さらにお土産にと持ちきれないほどの根野菜をいただき、参加の皆さんからは驚きと喜びと感謝の言葉ばかりでした。厳しい暑さの農場、様々な熱中症対策も用意されていたので、体調を崩す方もなく無事に過ごすことができました。

午前中は深草の、午後からは瀬田の学生さんによるキャンパスツアーに参加し、学生さんたちからは若いパワーをもらい、そしてご同行の諸先輩方からは歴史ある龍谷大学の魅力を教えていただきました。

学生の頃には行く機会の無かった瀬田キャンパスに時を経て行くことができ、ご縁と感謝を感じた忘れられない1日となりました。



⑪ ミステリーツアー「煩惱とクリエイティビティ」コース

三島 仁志さん(88年経営卒 パナソニックグループ支部 紫松会)

今回のコース選択は非常に悩みました。どれもこれも魅力的な内容ばかりで…その中でミステリーツアーを選択した決め手は、「企画された方の想いに乗っかってみよう！」という紫松会メンバーのいい意味での怖いもの見たさ、変なチャレンジ精神…的なノリで決めました。

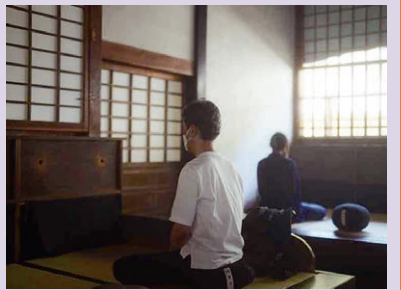
事前に頂いたパンフレットである程度想像はついていたものの、出発後スタッフの方から早々のネタばらし(笑)『座禅』・『写経』は経験すらないことで逆に期待が大いに高まりました。

30分間の『座禅』では、猛暑にも関わらず時間がたつにつれ、涼風と静けさの中にある自然の音に煩惱が吹っ飛び、『写経』では慣れない小筆に悪戦苦闘！意味は分からずとも妙な達成感を感じました。『抹茶』もおいしかった～♪

今回のミステリーツアーは、企画された方の想いが詰まった参加者目線でのイベントであったと思います。他のコースに比べこじんまりと10名程の参加でしたが、観光よりも体験型で数段良かったのではないかと思います。

行先・内容不明ということで二の足を踏んだ方もいらっしゃるかもしれませんが、なかなかわくわく感があっていいですよ！ぜひ第二弾よろしくお願いします。

ありがとうございました。



① バトン・チア SPIRITS

今回は貴重な演技の機会をいただきありがとうございました。かなりの炎天下の中でしたが、キャンパスの様々な場所から手を振っていただいたり、足を止めて演技を見てくださった方のおかげで、私達もとても楽しく演技することができ、パワーをいただきました。

まだまだコロナ禍ではありますが、今年度は演技を通して沢山の方々と触れ合う機会を沢山いただき、部員一同とても嬉しく思っております。これからも皆さまに応援していただけるSPIRITSを目指して、日々練習してまいります。今回は誠にありがとうございました。

(バトン・チア SPIRITS 一同)



② 放送局



今回は校友大会に関わらせていただきありがとうございました!! 貴重な経験になりました。当日は猛暑の中、暑さ対策をして活動しました。大変なこともありましたが、最後までやり通すことができて良かったです! コロナ禍で放送局としての活動が縮小されていましたが、校友大会が開催されたということもあり元に戻つつあるのだなと実感しました。次回開催される際もぜひ関わらせていただきたいです。ありがとうございました。(放送局一同)

③ マンドリンオーケストラ「1年生の初舞台に」

校友大会の瀬田キャンパスツアーにて演奏を行ったマンドリンオーケストラです。一時は演奏人数が足りず出演も危ぶまれましたが、1年生も出演して何とか無事に校友会の皆さまの前に立つことができました。15分と短い時間でしたが、活動と楽器紹介、そしてスキマスイッチ「全力少年」と作曲家で当部OBの丸本大悟が作曲した「茜」の演奏中も、熱心にお聴きくださり嬉しかったです。当部にご令孫がご在席されていた方もいらっしゃり、応援してくださったのが印象的でした。図らずも1年生初の演奏の場となりましたが、先輩方の前で演奏できたことをとても嬉しく思います。ご参加くださった方々に深く感謝を申し上げます。

(マンドリンオーケストラ一同)



④ 瀬田アドミッションサポーター



今回、校友大会のイベントの一つに、瀬田キャンパスそしてアドミッションサポーターを起用していただき、誠にありがとうございました。参加者様には、広いキャンパスを30分ほど見学していただいたのですが、猛暑の中の農場体験後にもかかわらず、皆さんとても元気で、私たちアドミッションサポーターが参加者様からパワーをいただくような形になりました。そのいただいたパワーもあり、とてもよいキャンパスツアーができたのではないかと感じております。また、参加者様の中には、キャンパスを回りながら在学中の思い出を話していただいた方もいらっしゃいました。そのお話をされる姿をみて、とても良い充実したキャンパスライフだったのだらうと感じました。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。(瀬田アドミッションサポーター一同)

⑤ 深草・大宮アドミッションサポーター

私たちは普段、高校生を対象に龍谷大学のキャンパスツアーを行っているため、卒業生の皆さまをご案内するのは初めてで緊張していました。ですがいざ始まってみると、卒業生の皆さまはとても優しく穏やかで、たくさん話しかけてくださったり、龍谷大学の昔の様子を教えていただけて、本当に嬉しかったです。皆さまがつくり上げてくださったこの龍谷大学の魅力を、今後もさらに大切にし、発信していきたいと改めて感じました。新鮮で貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

(深草・大宮アドミッションサポーター 一同)



特集 全国校友大会 in 京都

① 聖護院門跡・百万遍・知恩寺コース：永田 光男さん(72年経営卒)

京都の中心と言えば、「京都御所」。今回、その御所とかかわりが深い聖護院、知恩寺のコースを選択させていただきました。

龍大深草構内から校友会手配の貸し切りバスに乗りし、聖護院から知恩寺へ。そのバス内での聖護院ご住職奥さまのガイド案内はとても愉快で、参加者の皆さん大喜びでした。

今回の参加で初めて知ったことがたくさんあり、また龍大 OB としての特別配慮を多く頂戴し、恐縮満載のプチ旅でした。

地名にもなっている百万遍は後醍醐天皇からの知恩寺への寺号としての勅語であること。浄土宗宗祖法然上人が開山し、皇室と関わることで深く、時には住まいとなる所とも、また平成 29 年には主要堂宇九棟が歴史的価値を高く評価され国の重要文化財に指定されたことなど。

今回一番印象的だったのが、百万遍由来の後醍醐天皇御下賜大念珠のミニ版(それでも両手で捧げないと持てない大きさ)を参加者全員が両手でまわしながら悪疫退散の祈願をしたことです。これでコロナも退散すればよいのですが。



② 六道珍皇寺・建仁寺コース：加藤 雅通さん(97年短大卒)

校友会報に同封されていた「全国校友大会 in 京都」の案内。幼少期から慣れ親しんできた京都ですが、就職翌年に東京へ異動し、そのまま月日が経っていました。久しぶりに京都へ行く、そう背中を押された感じがしました。

20数年振りの深草キャンパス。生協食堂が22号館(元テニスコート)に移っており、それも地下2階ということで、恐る恐るでしたが、楽しみにしていたササミチーズカツを頬張り、そして、和顔館横のスタバ龍大店も満喫。

コースは、数ある中から、「六道珍皇寺・建仁寺参拝コース」を選びました。六道珍皇寺は、お精霊さんのお迎え、建仁寺は方丈の石庭で有名ですが、これまで足を運んだことが無かったことと、周辺に見どころがたくさんあることで選びました。六道さんでは、龍大出身のご住職による、ユーモアに富んだ講話の後、隅々まで拝観させていただける大サービスで、六道さんのバックグラウンドを勉強する貴重な機会となりました。



大変厳しい暑さの中、開会式を急遽屋外から、顕真館の屋内に変更されたり、各コースの移動にはマイクロバスをご手配くださったりと、校友会事務局の皆さまの万全な準備と数々のご苦労、また、学生さん方による盛大なお見送りに、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。

③ 泉涌寺・東福寺コース：太田 愛子さん(01年短大卒)

卒業後、友人達とは結婚や子育て等で会うことが少なくなり、そろそろ会おうかと話していたらコロナ禍で会う機会を逃したり…そんな中、全国校友大会 2022 のお知らせが届きました。「これだ！でもみんな集まってくれるかな？」と不安でしたが、思い切って誘うと皆喜んで参加するという返事でした。コースは寺院コース、帰りの利便性を考えて東福寺で解散できる泉涌寺を選びました。

待ちに待った当日、京阪の深草(今は龍谷大前深草)で下車し東門を見ると、見たことのない光景が広がっていました。門を入り右手にはスタバが！古かった1号館が建て替わってる！こんなところにお洒落なカフェが…など新しい発見は尽きず、変わった景色を楽しみつつ、変わらない景色に皆で思い出話に花を咲かせました。

開会式を終え、いざ泉涌寺へ。実は私を含め参加した5人は誰も泉涌寺のことを知りませんでした。龍大からバスで15分ほどの所にある、皇室と縁がある立派なお寺でした。若い僧侶さんが1時間ほどかけて案内をしてくださいました。その僧侶さんは、この春から泉涌寺に勤め始め、団体向けに案内をしたのは私たちが初めてだったそうで、素敵な御縁を感じました。庭園の青い紅葉も良かったですが、また秋が深まる頃に再度訪れたいと思いました。

全国校友大会に参加し、友人と再会できただけでなく、応援団のエールやチアのダンスなどを見て懐かしい学生気分を味わうことができたのも良かったです。

企画してくださった大学関係者・校友会支部の皆さま、そして当日眩しい笑顔で迎えてくれた学生の皆さんに感謝いたします。素敵なお土産もありがとうございました。また次回の企画を期待しています。



④ 永観堂コース：山下 雅代さん(72年法卒)

台風やコロナの感染拡大の中、久々に校友大会が京都で開催され、また、その後バスツアーで京都見学をさせていただけたとのこと。多種あるコースの中で、迷わず永観堂コースに決めました。永観堂は秋の紅葉も素晴らしいですが、夏の青紅葉がひととき美しいのです。



校友大会では懐かしい方々から元気をもらい、学食で昼食をとり、昔に還る楽しい時間を過ごしました。

永観堂では都会の喧騒から離れ、自分を見つめなおす時間が持てたのも魅力的でした。阿弥陀様にもゆっくりご挨拶ができました。そろそろ予約もおかねばね。

ここで一句。

身返れば 愚者にて候 我が身には

色々なコースに分かれての拝観は、龍谷大学ならではのイベントでしょう。次回の開催が楽しみです。お世話になった方々に紙面上ですが感謝！ありがとうございました。

⑤ 壬生寺、新撰組壬生屯所 八木家見学コース：高木 千佳代さん(94年経営卒)

大学時代に京都中を散策したつもりでしたが、壬生寺は行ったことがなかったので選びました。私が4年間来る日も来る日も授業と部活のために通った深草駅は各駅停車らしい雰囲気がありました。今は沢山の学生が乗降しても許容できる立派な駅舎になっていました。

深草キャンパスに入るとすぐにあの「スタバ」カフェがお出迎え。学食も今時らしく、廉価で夕ご飯の提供もしていて、私が部活帰りにおなかを空かせて帰っていた日々を思い出してうらやましく思いました。

当日は以前、生協会館(学館)があった場所にできた外部の人も利用しやすい感じの「Café Ryukoku &」でオシャレなランチをいただきました。とても暑い日だったので、学内散策中に正門すぐの「カフェ樹林」で「ウクライナリモナドフロート」も注文。私の在籍中は、このあたりにカフェがなく、それぞれ店名のとおり樹々が立っていました。

すっかり変わった学舎であるが、変わらず建っている「顕真館」を見てほっとしました。

その後「壬生寺・八木家見学」ツアーに参加。OBの方々の尽力により普段は入れない場所まで見学させていただき、皆で大いに感動しましたが、詳しくは他言無用とのこと。

さすが、OBの層の厚さ。猛暑の中案内していただき、素敵な案内で暑さも吹き飛びました。

また、学内での学生による学内ツアーに参加して、学生から元気をもらい、チアリーダーの学生たちの演舞からも沢山の元気を分けてもらい、応援団の学生が舞台だけでなくバスが発車する時に門の近くまで来てくれてエールをもらって感動しました。

懐かしい大学の思い出と新しい大学の雰囲気を味わって、さらに旅行気分にもなれる、何よりも1000円で楽しめる！「全国校友大会」に一度は参加されることをお勧めします。



⑥ 上七軒界隈の散策コース：武村 純一さん(18年政策院了)

「大大大満足でした！！」久しぶりに訪れた深草キャンパス。なつかしい！！うれしい！！と、スタート前からワクワクしていました。

全国校友大会 in 京都では、京都をめぐる11コースを用意していただき、全てのコースが魅力的で「どのコースにしようかなあ？」と迷っていたところ、長年京都に住んでいるにも関わらず、今まで訪れたことがなかった「花街」の1つである「上七軒」のコースがあり、「これはぜひ行きたい！！」と思い即決しました。

スタートは、全国からの参加者全員が、在校生によるチアリーダーや応援団によるエールを受けてスタート。すでにアゲアゲノ気分です！！

我々、上七軒コースの7名は、上七軒だけでなく、途中、陰陽師で有名な安倍晴明が祀られている「晴明神社」、学問の神様で「天神さん」と親しまれている「北野天満宮」も古美術研究会のOBOGの分り易いガイド付きで案内していただきました。

晴明神社では「安倍晴明は、式神という“鬼”を自宅のお手伝いさんとして使っていた」という面白い逸話を解説いただき「昔は、ここに鬼が住んでいたんだなあ…」と想像したり、北野天満宮では灯籠に刻まれた大黒天さんの口に小石を乗せる、昔からの運試しをしました。うまく、小石が乗ればお金に困らないという言い伝えがありますが、これが、滑ってなかなか乗らないのです…。



そして、上七軒は昼間にも関わらず、花街ならではの何とも言えない華やかさがあり「ここで舞妓さんとビールで乾杯できたら最高なのになあ…」と妄想しているところで、大大大満足のツアーが終了しました。

とても素敵な企画を立案いただき、そして猛暑の中、一所懸命に校友大会を運営いただいた事務局の方々に感謝し、龍大で学んで良かったなあと感じながら帰路につきました。

今後も、このような機会があればぜひとも参加したいです！！本当にありがとうございました。

⑦ 応仁の乱ゆかりの地、西陣界隈の散策コース：K.N さん(13年国際文化卒)

かかる状況下、なかなか気軽には関西へ行けず、「そうだ、京都、行こう」のCMを見るたびに大学時代のように自由に京都を練り歩ける機会を渴望していました。

そんな中、校友会報で今回のイベントを知り、迷わず応募しました。コースラインアップは多種多様でどれも興味深かったのですが、西陣界隈はあまり馴染みがなく新鮮に感じたため、このコースを選びました。

古美術研究会 OB/OGの方々によるプロデュースということもあり、散策プランはもとより、散策のお供となる資料も丁寧に作り込まれており、とても充実したフィールドワークでした。

また今回はメディアで取り上げられるようなメジャーどころではなく、知る人ぞ知るスポットがピックアップされていたため、人混みを避けて静かにゆったりと京都の空気を満喫できた気がします。中でも特に心惹かれたのが山名宗全邸宅跡です。今は住宅街にひっそりと蹟碑が残るのみで、目の前を通りかかったとしても、一人きりで散策していたらきっと見過ごしていたことでしょう。今回このスポットを紹介くださったおかげで、京都という街が目当たりしてきた歴史の流れに少し触れられた気がしました。

実は私は大学生の頃からフィールドワークが趣味で、学生時代はバイト仲間と、現在は職場の同僚と、毎月テーマを決めて散策・研究を楽しんでおります。卒業して9年経った今になって初めて龍大の古美術研究会の存在を知り、大学生の頃に知っていればと少しだけ惜しい気持ちに…！

京都の様々な面を再発見できる点がおすすめです。

このように校友大会は、自分では思いもよらない場所へ案内してもらえるので、自身の知見も深めることができると思います。



スタッフとサポーターに感謝の声 続々

⑥華舞龍（かぶりゅう）



今後とも華舞龍をよろしくお願いたします。

先日は深草キャンパスで演舞を披露させていただきました。普段踊らないような環境で踊らせていただきとてもいい経験になりました。また、とても暑い中でしたが、校友大会に参加された方々に、演舞を披露できたことをとても嬉しく思います。我々華舞龍は1人でも多くのお客さんに笑顔をお届けするような演舞を目指しておりますので、これからも温かく見守っていただけると幸いです。

（華舞龍一同）

⑦応援リーダー部

7月2日の全国校友大会 in 京都では、新体制後初となるエールを切らせていただきました。気温が37℃を超えるなか、お集まりいただいた卒業生の皆さまの前で応援リーダー部の姿をお見せすることができ、本当に嬉しく思いました。

応援リーダー部の存在はまだまだ認知されていませんが、今日のような活動をとおして少しずつでも存在を認知していただけると嬉しいです。

今年は、猛暑日となる日が続いています。熱中症など、体調管理には十分お気をつけください！

フレー！フレー！龍大！

フレー！フレー！卒業生！

（応援リーダー部一同）



◆京都市支部 支部長 宮城 泰年さん(54年文卒)

コロナで支部の活動に制限が続いた中、全国校友大会が京都で開催されるということで、地元の支部として、全面的に協力することとし、支部会員25名で当日の受付やコース別の担当をしました。

酷暑の中での開催となりましたが、本部と連携し、臨機応変の対応ができ、無事に開催できたことに安堵しています。

参加者が家族友人を含み、子供から高齢者まで幅広かったため、アットホームな雰囲気楽しんでいただけたのではないのでしょうか。

京都市支部として、今回のイベントの諸役に当り、運営にかかわったことは、支部の結束意識をより高められたと思います。また、校友の一人として「龍谷大学卒業生であってよかった」と感じたイベントでした。



◆古美術研究会 OBOG 会 佐々木 啓示さん(15年文卒)

卒業後、なかなか大学へ伺えませんでした。この度のご縁に恵まれ、愛する母校へ帰ってくる事ができました。

私は、数あるサークルの中でも「うちがいちばん京都らしいサークルなんだ！」と個人的に自負しているお寺巡りサークル「古美術研究会」(通称：こびけん) OBです。久方ぶりのご案内となりましたが、「丁寧な案内をありがとう」とお褒めの言葉をいただきました。これは私ひとりの力ではなく、学友とともに切磋琢磨し培われてきたものと実感しましたし、加えて、龍谷大学で経験したことすべてがかけがえのないものだったのだと、改めて感じました。全国校友大会が今後さらに多くの方にとって、母校への誇りと愛着を再認識していただく場になることを願ってやみません。



政策学部同窓会

「6期生リベンジ卒業記念パーティー」オンラインで開催

20年3月、新型コロナウイルス感染症の影響により卒業式・卒業記念パーティーが開催できなかった政策学部6期生を対象に、「リベンジ卒業記念パーティー」をオンラインで開催いたしました。

当たり前の日常が失われてから約2年が経過した現在、最近会ってなかった友人と連絡を取るきっかけの創出、政策学部でのつながりを紡ぎ直すことで明日からのちょっとした活力になればとの想いで当時の卒業記念パーティー実行委員が再結集いたしました。

対面で集まることが難しい状況の中で、いかに実行委員の企画の想いを達成できるのか、実行委員は仕事を終えた後など時間を捻出して打ち合わせを繰り返しました。ハガキやSNS等での広報活動が軌道に乗らず集客に苦労しましたが、申込期限直前まで個人への呼びかけに注力し、何とか目標人数も達成でき、大抽選会と6期生の「今」そして「あの頃」のムービーを放映し、無事に開催することができました。

出席者からは、「豪華景品に当選した喜びとともに、当時の思い出に浸りながらも現在の6期生の近況や頑張りも垣間見え、明日から自分も頑張ろうと思った」等の前向きなご意見をいただきました。

（会長 田中友悟）



法学部同窓会

プロフェッショナルの軌跡

法学部同窓会では、7月10日に「プロフェッショナルの軌跡～古典芸能に生きる卒業生～」と題し法学部85年卒業の林家染二氏と短期大学部19年卒業のはやし都美礼氏をお迎えし、前半は、なぜ、その道に進もうと思ったのか、師匠への最初のコンタクト方法などを伺い、後半は、寄席囃子の実際を聞いていただきました。お二人とも龍谷大学での出会いとご縁が選択に大きな影響を与えたようです。今回も、同窓生だけでなく、先生方、学生の方、遠方の方にも視聴いただきました。ありがとうございました。今後も様々な行事を企画してまいりますので、法学部同窓会にご支援を賜りますようお願い申し上げます。（会長 成松重人）



岡山大学詩吟部と交歓す

龍吟会

22年6月25日、岡山大学創立五十周年記念館で開催された錬成大会に出吟。関西地区ではかつて14大学に詩吟部があったが、現在では龍吟会のみ。中国地方でも岡山大学のみ。参加した龍吟会薄田幹事長、斗山副幹事長も

はじめて聞く学生吟の迫力に圧倒された様であった。私共も二吟賛助出吟した。岡山大学側からもお互い流派は違うけれども両大学学生にとって研鑽できたことと思う。」と喜んでいただいた。

かねてから一度学生に同じ学生の吟を聞かせてあげたいと思っていたのでこれで奮起し、これからのサークル活動も張り切って取り組んでくれるものと思う。今秋にはお互いの吟詠発表大会に出吟することまた、情報交換を通じ日本伝統文化のひとつである詩吟の発展に寄与することを岡山大学部長、師範、主将と確認

した。

また、この錬成大会に参加するにあたっては大

阪経済大学大樟会（同窓会）、そして元龍吟会部長であり大取一馬名誉教授の実弟である岡山大学吟詠部元師範大取寛照先生のご尽力により、実現できたことに感謝したい。（龍吟会顧問 半田一清 70年経済卒）



法学部では、19年度から「法学部メンターシッププログラム」を展開しています。このプログラムでは、メンター（「助言者」「相談相手」の意）として登録していただいた卒業生とメンティー（「メンターから助言を受ける者」の意）である在校生が対面／オンライン形式で交流します。現在、法学部の卒業生を中心に約100名の方々にメンター登録をいただいています。具体的なメンタリングとしては、
①メンターとメンティーが1対1で行う「個別メンタリング」、
②一人のメンターと数名のメンティーがグループディスカッションをする「メンターラウンジ」、
③メンターが一人ずつテーブルに座り、メンティーが自由に移動しながら話し合う「メンターフェア」の3種類があります。これまでに数多くの有為な卒業生を輩出してきた龍谷大学。その豊かな人的財産を現役学生のキャリア形成を含む人間的成長に積極的に活かすこと、それが法学部メンターシッププログラムのひとつの目的です。出身学部を問わず、校友のみならずメンター登録をお待ちしています。（法学部教授 落合雄彦）

林家染二独演会 2022 「染二襲名二十五周年」



法学部メンターシッププログラム



社会学部 准教授
井上見淳 (01 年文院了)

コラム

今も使える 仏教用語 「畜生」

「チクショー!」
この言葉を口にして、悔しがっている人をしばしば見かけます。一説によると相手を罵って言っている言葉だとか。
漢字で書けば「畜生」と書くわけですが、では畜生とは何か。そう訊かれたら、だいたい獣や鳥をイメージしませんか。
さて仏教の持つ生命観では、私たちは六道(天・人・阿修羅・畜生・餓鬼・地獄)という六つの世界をそれぞれグルグルと生まれ変わり続けていると考えます。畜生界とは下

から三番目で、私たち人間より下に置かれています。では、その「差」がどこにあるのかというと、『涅槃経』という経典には、次のような興味深いお話しがあります。
「慚は人に差つ、愧は天に差つ。これ慚愧と名づく。無慚愧は名づけて人とせず、名づけて畜生とす。『註釈版聖典』275頁」。

仏教では自分の犯した罪を人に対し、あるいは天(ここではブツダや菩薩の意味)に対して、ここから恥じることを慚愧といいます。そして人間

か畜生かを分けるのは、人間か動物かではなく、慚愧があるかないかだということです。これは、大変に考えさせられる言葉です。
ところで、親鸞聖人にはご自身を「無慚無愧のこの身に」(『正像末和讃』第97首)と、罪を犯しても慚愧することなく生きてきた身であると厳しい言葉で省みられた箇所があります。これは、浄土真宗という教えに出会い、はじめて知らされた自分の真実の姿を痛切に慚愧されているのです。ですから親鸞聖人には

「如来の回向をたのまでは無慚無愧にてはてぞせん」(『正像末和讃』第99首)という言葉もありま

えの枠組みが必要です。本学では全学生に我が校の「建学の精神」にふれてもらう目的で「仏教の思想」という科目が必修として用意されています。ぜひとも慚愧ある立派な大人へ成長していつてほしいと願っております。

そして、二月にロシアがウクライナへ軍事侵攻し、連日聞くに堪えないニュースが流れています。逆



当日は、学生法律相談部、法学部教員、本学卒業生の実務家(弁護士・税

福岡県福岡支部
5月28日に福岡支部の

今年度は感染状況を睨みながら、対面での行事をぜひ開催したいと思いま

コロナ第七波? 阪神タイガースまさかの失速!と心配の尽きない中



えてみな笑顔笑顔大満足
の一日でした。
(支部長 三島仁志)

は世代を超えた会話に花

この無料相談は、様々な相談に対応できる法律家や実務家が一同に会す

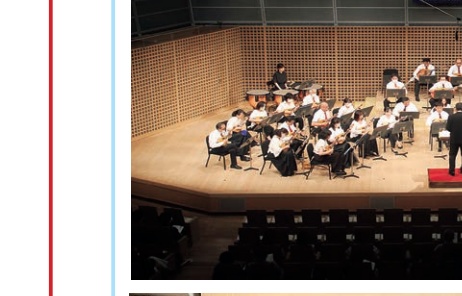
また、三好さんが龍谷大学相撲部出身ということもあり、京都からオンラインでつないで、現役

第16回パナソニックグループ支部(紫松会) in 甲子園

7月17日、京都コンサートホール小ホールにて、コロナ禍で練習中断・延期となっていた第2回OB演奏会を開催することができました。

初試みとして第1期卒業の大先輩、54期目の現役学生が懐かしい大学校舎で合同練習を行い、世代を超えて共演しました。

マンドリンオーケストラ
OB OGと現役生のコラボ演奏会開催



阪神支部
6月19日、3年ぶりとなる心の講座と支部総会を開催することができました。

兵庫県・丹篠支部
6月26日に、「龍谷大学法学部ウィークエンド無料法律相談 in 兵庫」を

学生にとつては、大学から外に出て、教員や実務家とともに現場を体験することで、座学ではない学びを体験できまし

また、先輩方との交流もよい刺激となりました。(法学部教務課)



総会を3年ぶりに対面形式で開催いたしました。総会に先立ち、龍谷大学事務局長の三好慶祐さんを迎えて、「龍谷大学の往古来今」をテーマに講演いただき、龍谷大学の歴史を振り返りながら、建学の精神を基に龍谷大学が目指している方向性や、大学の将来構想について、お話しいただきました。

また、三好さんが龍谷大学相撲部出身ということもあり、京都からオンラインでつないで、現役の相撲部員の皆さんが試合前日にも関わらず、今の相撲部についてお話ししてくださいました。

その後の総会では、昨年度の事業報告・決算報告並びに今年度の事業計画案・予算案をご承認いただきました。

会員の皆さんからは、学生さんの生の声を聞くことができ、また、龍谷大学相撲部員の皆さんの強さに驚きの声をいただきました。

今年度は感染状況を睨みながら、対面での行事をぜひ開催したいと思いま



「日本経営史」で学んだ
「長く続く企業は目先の
利益ではなく経営理念を
追求している」というこ
とが印象に残っているそ
うです。太田さんのホス

校友のお店

のりまきのすけ

お客さまを思う気持ちは
ずっと同じ

太田 也寸志さん
(87年経営卒)

ピタリテイ精神は、大学
の授業が原点かもしれま
せん。卒業後は外食企業
に就職。当時のファミ
リレストランはセント
ラルキッチン導入前で、
各店舗で調理しており、
一流ホテルの元料理人か
ら手ほどきを受けること
ができたそうです。

6年間勤務された後、
研修で学んだ「ホスピタ
リティの実現」をより理
解するため、外資系企業
に転職。そこで、授業でも

学んだ『経営理念の追
求』こそが会社の成功の
道』であると確信するこ
とができたそうです。顧
客満足度を追求し実績を
上げておられましたが、会
社の経営母体が変わり、
トップの考えとブレが生
じたため、半ばヘッドハ
ンティングで再度転職。



1 番人気の焼肉キンパ

国料理店の店長(師匠)に
勧められて開業を決意さ
れました。
「おいしいキンパを知
ってもらい、ラーメン
やカレーのように当たり
前の料理にする」ことを
目標に、焼肉キンパは日
本人の口に合うよう、師
匠と研究を重ねてたどり
着いたオリジナルの味。
看板商品のキンパで最も
こだわっているのが海苔

で、口に入れると溶ける
ような柔らかさが特徴と
のこと。
開業後の大変な時期に
支援してくださった社長
にご恩を返したいと伝え
たところ、「受けたものは、
周りの人に回してくれ
ればいい」と言われた
ことがきっかけで、子
ども食堂などの地域貢献
活動に取り組みされていま
す。お店のマスコットは前
職の後輩がデザインして
くれるなど、ご縁に支え
られていると太田さん。
定番のキンパのほか、
具材を選べるオーダーメ
イドキンパ、特注パー
ティ用のロシアンルー
レットキンパなど、メ
ニューも楽しそう。また、
師匠直伝のサンドウチ

のりまきのすけ

〒569-0824 大阪府高槻市川添2-1-3
川添ショッピングセンター1F
JR高槻駅から市バス18系統で
富田団地中央下車徒歩2分
TEL 072-695-7881
営業時間11時～19時
定休日 木曜日

2022年度ホームカミングデー(予定)

龍谷大学の最先端を瀬田キャンパスで体感しよう
■瀬田：10月29日(土) 10:00～19:00 (模擬店は16:00まで)
11:00 農学部関係見学
13:00 龍谷賞贈呈式(樹心館)
13:30 先端理工学部見学
■深草：11月6日(日) 10:00～18:00 (模擬店は15:00まで)
※学生模擬店チケット1,000円分プレゼント!
※両キャンパスとも申込制



詳細はこちら

2022年度校友音楽祭(予定)

入場無料 ※出入り自由 ※ご来場者に記念品 ※お子様が遊べるスペースあります
日時：11月27日(日) 14:00～16:00
場所：龍谷大学響都ホール校友会館&ライブ配信
出演サークル(予定)
■京炎そでふれ 輪舞曲(学生)
■吹奏楽部アンサンブル(学生)
■マンドリンオーケストラOBOG&学生
■吹奏楽部OBOG会 他
詳細はこちら



詳細はこちら



龍谷大学校友会 公式SNS

SNSを通じて色々な情報を発信してい
きますので、是非ご登録をお願いします。



(清水卓智)

仏教に学ぶ

聖徳太子と仏教の教え

聖徳宗第7代管長
法隆寺第130世住職

古谷 正覚



プロフィール

48年大阪市生まれ。71年文学
部卒業。高野山大学大学院修士
課程中退。法隆寺執事、執事長
を歴任。20年より現職。

法隆寺では二一四年四月
に聖徳太子の千四百年御
忌法要を行いました。
聖徳太子は西暦五七四
年に生まれ、同六二二年
二月二十二日に薨去され
ました。その時の様子が
記された「釈迦三尊像光
背銘文」を要約します
と、前年十二月に聖徳太
子の母、間人皇后がこの
世を去られ、翌年一月
二十二日には聖徳太子が
病で床につかれました。
王后王子諸臣が共に発
願して聖徳太子等身大の
釈迦如来を作り、その願
力によって太子の病気を
治し寿命を延ばすことを
願われました。仏教を紹

隆し、共に彼岸に赴き六
道の苦縁を脱することが
でき、極楽往生し悟りを
得ることを願い、最後に
司馬の鞍造りの止利仏師
によって造られたと記さ
れています。
聖徳太子の名前は最も
古い記録では、慶雲三年
(七〇六)、法起寺の塔の
露盤に「上宮太子聖徳皇
子」と銘が刻まれています。
これが聖徳太子とい
う名前の最初だといわれ
ており、その後一般的に
なつたのは天平勝宝年間
(七五〇)頃と言われてい
ます。それまでは前述の
釈迦三尊像の光背銘文に
「上宮法皇」、薬師如来像

の光背銘文には「東宮聖
王」という名前が記され
ており、『日本書紀』では
「厩戸皇子」「厩戸豊聡耳
太子」などの名前と呼ば
れていたと思われます。
朝鮮半島との外交方
針、国内の政治、皇位継
承問題などで豪族同士の
争いが絶えない時代でし
た。穴穂部皇子が殺害さ
れ、物部一族が滅亡し、
崇峻天皇が暗殺されると
いう、そういう悲惨な出
来事が相次いだ時代で
す。このような時代に聖
徳太子は平和な世の中を
つくりたいと考え、その
実現のために仏教を広め
たいと考えました。

五九三年、推古天皇が
即位し聖徳太子が摂政に
なり、五九四年、『日本書
紀』には推古天皇が三宝
興隆の詔を発せられたと
あります。三宝とは仏
法、僧を指します。仏は
正に覚者、悟りをひら
いたお釈迦様のことであ
り、法は人々が最も尊ん
で信すべき真理を指しま
す。僧は個人の僧ではな
く和合衆という意味で、
仏様の教えを実現するこ
とを目的として修業をし
るお坊さんの集団を指し
ます。この三つが揃って
初めて仏法興隆、そして
その仏教の具体的な建物
がお寺となるわけです。
聖徳太子も四天王寺、法
隆寺、中宮寺など、次々
とお寺を建て、鎌倉時代
の『聖徳太子伝暦』には建
立した寺は四十六にのぼ
ると書かれています。
五九六年、道後温泉を
訪れた聖徳太子らが建立
したとされる『伊予湯岡
碑文』には、「日・月は上
に出て、すべての人を平
等に照らす」とあります。

神の温泉は下から出てき
て誰にでも公平に恩恵を
与える。太陽はすべての
ものを平等に照らして
偏つたところのない寿国
という理想の国・極楽浄
土が詠まれていて、平等
で平和な社会を望んでい
た聖徳太子の思い、理想
の社会が記されています。
このような理想の社会
を構築するために、聖徳
太子は六〇四年に十七条
の憲法を定めました。
第一条には「和を以て
貴しと爲す」とあります。
一般的にはこの言葉だけ
がよく知られています
が、和には調和・温和・
和睦・平和という意味が
あり、ここでは協調し仲
良くするということの重
要性が示されていると思
われます。そして上の者
が和らいで下の者と仲良
く睦まじく親しくし、何
事があっても話し合えば
道は自然に通じるという
ことです。
第二条には「篤く三宝
を敬え」とあります。全

ての時代、全ての人がこ
の三宝を貴ぶべきで、性
善説の立場に立つて教育
を説き、三宝の重要性を
説いています。
第九条では信の重要性
を説いています。信は義
の根本で、信があるとき
は何事も成就し、信がな
ければすべての事柄が失
敗するとしています。
聖徳太子は『三経義
疏』を制作し仏教信仰へ
の熱い思いを残していま
す。また次の三人には自
身の思いを残していま
す。妻の橘大郎女には
『天寿国曼荼羅續帳』の
中で「世間は空しく仏の
教えが真実であり大切に
だ」という言葉を残して
います。甥にあたる田村
皇子には『大安寺伽藍縁
起并流記資財帳』に、「財
物は滅びやすいが、三
宝、仏教の教えは絶える
ことがない」と残し伝え
ています。子の山背大兄
王には、『七仏通戒偈』の
二句、「諸々の悪をなす
ことなかれ、諸々の善を
奉行せよ」と伝えていま

す。
仏教には十悪と呼ばれ
る、身体(三悪)・口(四
偷盗、邪淫、口、四惡
(妄語、綺語、惡口、兩
舌)、心の三惡(貪欲、瞋
恚、愚癡)があります
が、すべての悪は自己中
心的な考え方から起こつ
てくるものです。煩惱の
もととは心の三惡で、最も
強く戒められています。
このように聖徳太子は
仏教の教えを国の掬りど
ころとして十七条の憲法
を制定し、仏教への熱い
思いから『三経義疏』を
制作しました。仏の真実
の教えを後世に伝えるこ
のような取り組みが聖徳
太子信仰につながってい
きます。聖徳太子の心を
支えているものは仏教で
あり、仏の教えを実践す
る生活を送られたと考え
ます。それが今も受け継
がれているのです。
没後千四百年目を機
に、聖徳太子の生涯と仏
教について、皆さまにも
お考えいただければと思
います。

編集後記

第95号は、7月2日に
開催されました校友会全
国大会の様子を特集いた
しました。当日は、炎天下
の中500名余の校友に参加
いただき、また現役龍大
生諸君の献身的協力によ
って、無事に終了でき
ましたことが、一番のト
ピックスであります。

さて、23年は、親鸞聖人
誕生八五〇年にあたりま
す。今日、テロや戦争また
自然災害等様々な災厄が
襲ってくる中で、人は「ど
うしたら良いのか」分か
らずに立ち竦んでしま
うかも知れません。そこ
に『一つの道』を指し示し
たのが親鸞聖人ではないで
しょうか。

動乱の中で、社会が大
きく変動し、価値観が大
きくひっくり返った時代
に、非僧非俗の生き方を
貫き、悩み苦しむ庶民と
膝を交えるようにして向
き合ったその生き方に、
今日を生き抜くヒントが
あると考えます。そこで、
校友会報において『伝灯
の時』現代に生かしたい
親鸞聖人の心にも触れて
みたいと思います。
(清水卓智)